

おうち

第5号

2004.10

からだ こころ あたまを うごかそう

テーマ あそび



表紙絵 たけのきしんみなみちゃん (5歳)

アンケートの結果から 「あそび」 室内遊び、戸外遊び、読者の意見

トピック 「昔はこうだった」「指示多き親の悩み」

子どもと読みたい一冊 「ぼちぼちいこか」

お知らせ

栃木県幼児教育センター



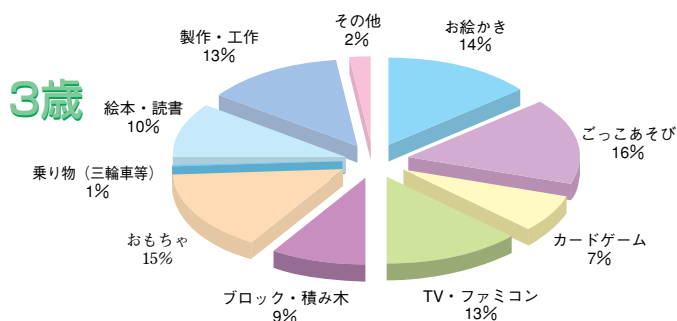
力いっぱい、また自発的に、一生懸命に、夢中になって、身体が疲れきるまで遊ぶ子どもは、必ずやたくましく、忍耐強く、人のことを思いやる人間になるでしょう。遊びに没頭すること、そのことはこれから生きていく子どもたちの燃料となるのです。

アンケートの結果から「あそび」

幼稚園や保育所を通して保護者の皆様方からいただきましたアンケートから子どもたちの家庭での遊びを年齢ごとにまとめてみました。

室内遊び

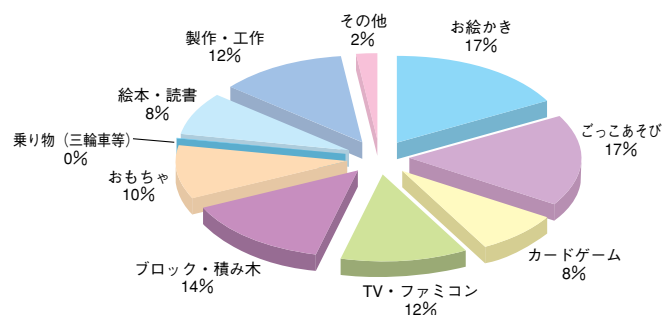
年齢にかかわらずTVやゲームはかなりの割合で生活の中に入り込んでいることが伺えます。反面、絵本や読書の時間が年齢とともに減少していくことが少し気になります。



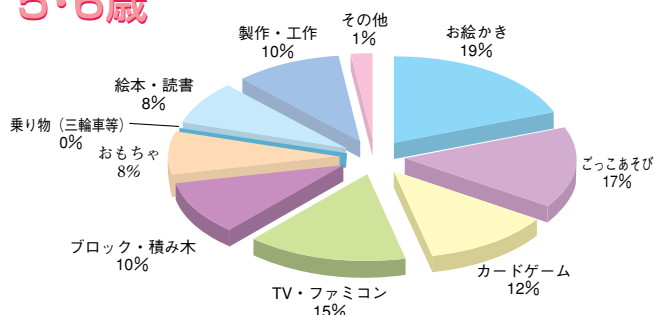
・カードゲームやTV・ファミコン、ブロック・積み木、おもちゃなど“遊び方が規制されているもの”で遊ぶ割合が多いのが気になります。
・この時期は大の絵本好き。絵本に大いに親しませたいものです。

4歳

・4歳は「手が自由になる」時期です。お絵かき、制作・工作など“自分の思いのまま”に表現できるようになるので、家庭でもちょっとした援助を心がけてください。



5・6歳



・子どもたちにとっては“操作しながら”遊ぶファミコンのほうが絵本より受けるのかもしれませんが、絵本にはもう少し親しんでもらいたいものです。
・5・6歳のごっこ遊びは、低年齢の「なりきり」遊びとは異なって、友達と群れて、あるいは仲間になって遊ぶ楽しさを感じています。

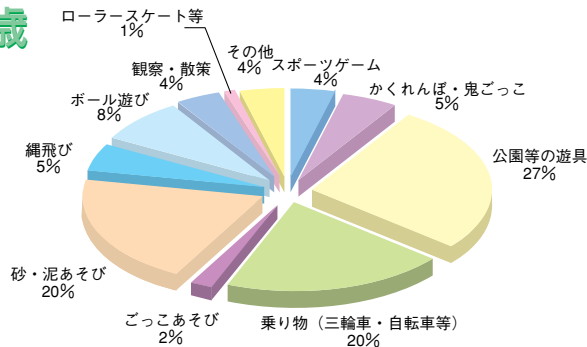
・ 戸外遊び

多くの保護者が、幼児期は基礎体力をつける大切な時期なので、体を動かして遊んでほしいという願いを持っていました。

アンケートの結果では、顕著な傾向は見られなかったものの、一人遊びの多い3歳は公園等の遊具や乗り物、砂・泥遊びの割合が高くなっています。かくれんぼや鬼ごっこ、スポーツゲームなど、ルールがあり集団で遊ぶ遊びをする割合が一番高いのは4歳です。

5・6歳になると、スポーツゲームや鬼ごっこなどに加えて、体の発達とともに自転車などの乗り物が多くなってきます。

3歳



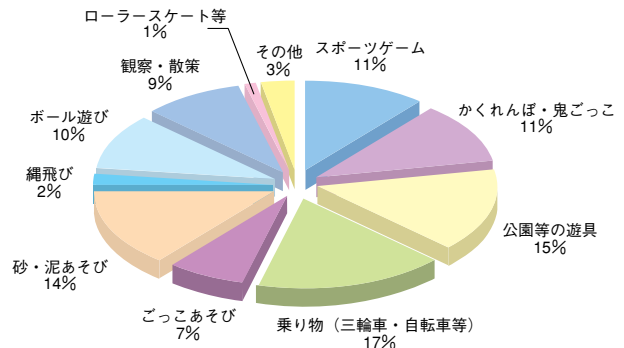
・ 3歳は「三輪車」の時代といわれます。三輪車は目と手足など二つ以上の行動がうまく調和するよう促すよい遊具です。

・ 「何かに見立てる」「なりきる」が好きな時期なので「ごっこ遊び」を十分にさせてください。

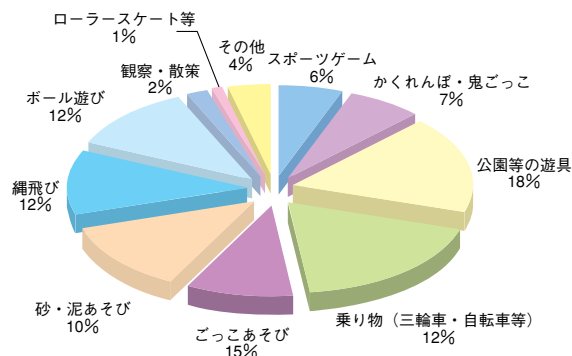
4歳

・ スポーツゲーム、かくれんぼ・鬼ごっこ、乗り物など、予想以上に体を動かす遊びをしています。

・ 縄跳び、ボール遊びなど“用具を使った遊び”は、親が共に楽しんで、うまく扱えるようになると、飛躍的に遊びが好きになり、道具の扱い方がうまくなります。4歳はこういった遊びを“まず好きにする”のに最適な年齢です。



5・6歳



・ この時期は、サッカーなどボール遊びのルールも理解するようになり、それを、自ら守って、友達と楽しくゲームをすることができる時代です。また、自転車が乗れるようになるのもこの時期です。しかし安全に関する配慮はまだ十分育っていませんので、大人の見守りが必要です。

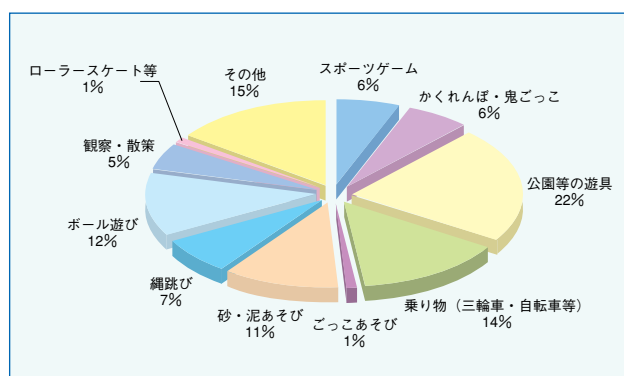
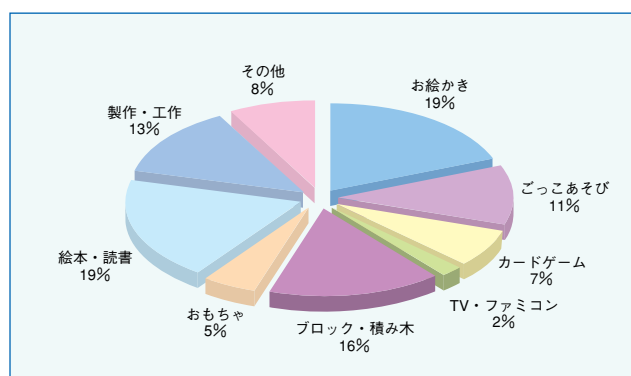


保護者がしてほしい遊び

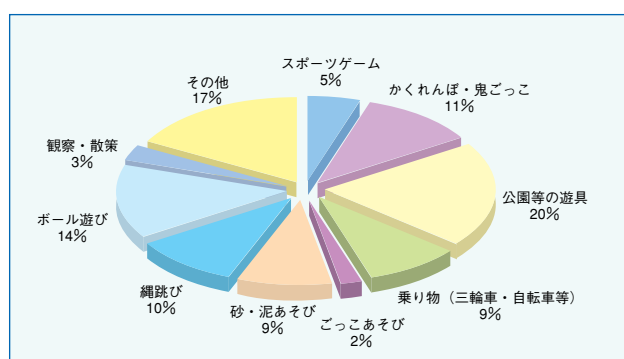
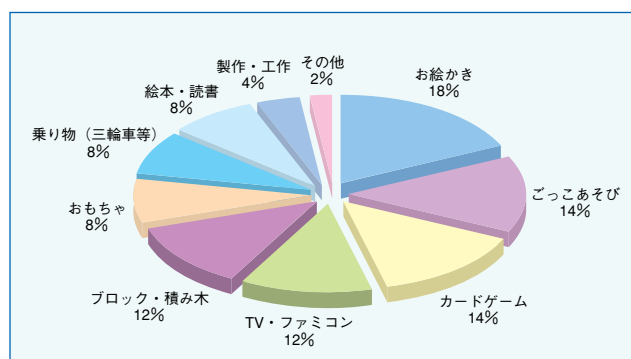
《室内遊び》

《戸外遊び》

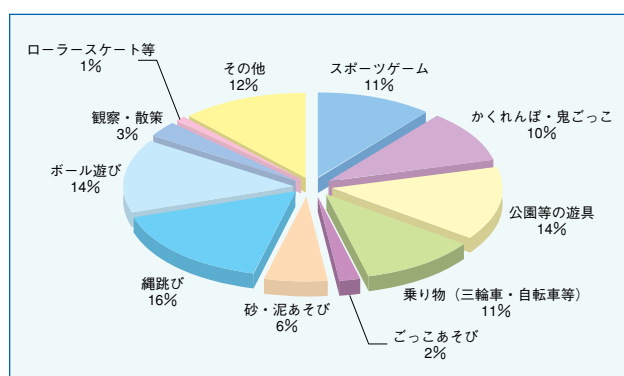
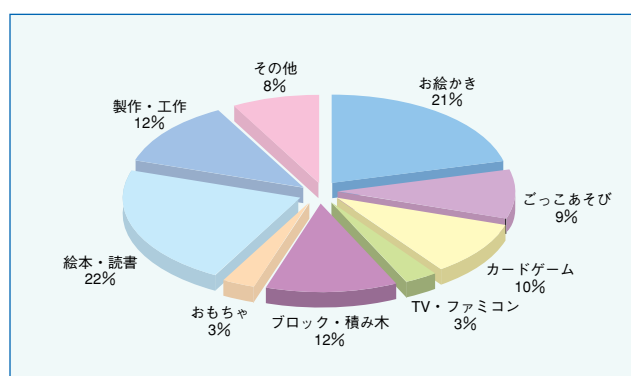
3歳



4歳



5・6歳



親がさせたい室内遊びでは、絵本・読書やお絵かき（字を書くことを含む）、ブロック・積み木の割合が高くなっています。戸外遊びでは年齢を追うごとに体を十分動かして遊ぶことを期待をしてスポーツゲームやボール遊び、なわとびなどの割合が高くなっています。4歳の保護者は、他の年齢と異なりTV・ファミコンの割合が高くなっています。4歳という年齢は子育てで一段落する年齢かもしれませんが、その時期だからこそ目を離すことなく丁寧にかかわる必要があります。

《兄弟姉妹関係による遊びの傾向》

今回は室内と戸外の遊びの時間の比較調査はしませんでした。自由意見等から、外遊びを期待しているものの、十分にさせられない実態が見えました。

兄弟関係によって遊びの傾向がどうなるかも同時に調査しました。以下のような傾向が見られました。

- ・兄弟がいない群では、観察・散策の割合が高い。
- ・下に兄弟がいる群ではかくれんぼや鬼ごっこ・ごっこ遊びの割合が高い。
- ・上に兄弟がいる群では乗り物やカードゲームの割合が高い。

読者の意見

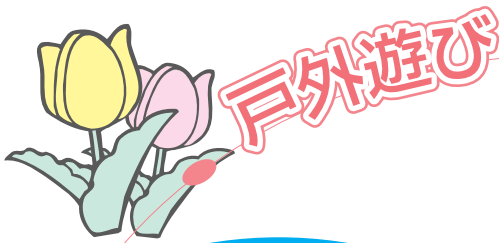
おもちゃ

- 既成のおもちゃより遊びや道具を自分たちで作り出していくときのほうが、目が輝いている。
- 豊富なおもちゃは子どもをだめにすると感じる。
- 年齢にあったおもちゃを与えるのが難しい。
- おもちゃがあまりない分、新聞紙や空き箱で自分で作ったもので盛り上がっている。
- 祖父母がおもちゃを買い与えて困っている。
- 既成のもので体を動かさずに遊ぶのは子どもらしくないと思う。
- おもちゃを買い与えてもそのときだけで大切にしない。
- 最近はベゴマもひもを使わずに回るし、メンコもメダルなどで重さを調節して遊ぶことができる。そのうち竹とんぼも進化するのでしょうか？子どもの工夫の余地を奪わないでほしいと思います。



ゲーム

- 友達がゲームを持っていると家で与えなくてもゲームをしてしまう。
- ゲームの時間が長くなり心配。父親まで夢中。
- ゲームをほしがっていますが、踏ん張って買いません。
- ゲームをするといらいらしやすく短気になります。
- ゲームを禁止したら、なければならないなりに仲良く遊ぶようになった。
- 出かけた先でもゲームを離さない子がいるのはちょっと心配だ。
- 上の子がいるため早いうちからゲームを覚えてしまい困っている。
- 実は親がゲームをしているので子どもが始めたということも多いようです。



戸外遊び

●外で遊んだ日にはストレスもなく夜はよく寝ます。●外で遊んで汚したものは叱らないようにしている。●週3回習い事なのでそれ以外は外で遊ぶようにしている。●年長になったら動きが激しく汗びっしょりになるほど。自分で着替え、また外に行って遊んでいる。●みつばち基地作りなど自分が子どものころにしたことをさせたい。

- 天気が悪いとき体を動かして遊べる場所があるとよい。
- 土日は親の都合で子どもを連れまわしてしまうことが多く反省。
- 活発に体を動かすことの少なかった上の子は、未だに筋力が弱いように感じます。
- ボール遊びが好きだが駐車場はあっても広場がなく不自由。
- 近くに遊べる子どもがいないので外遊びができない。
- 外遊びでは不審者の心配が付きまとう。公園の特にトイレが危険だ。
- 公園の遊具を充実してくれるとありがたい。缶蹴り、かくれんぼ、だるまさんころんだ、ままごとなど異年齢でやってほしい。
- 公園で、せっかく砂遊びをしているのに服が汚れるからという声かけをしているお母さんがいて、もっと自由に遊ばせてあげたらいいのと思った。

自由意見

●自発的な遊びが一番集中するようだ●遊びの中で多少の喧嘩をさせたいが親同士がまずくなってしまうことがある。●ゲームのさせ方を教えてほしい●学習に役立つ遊びをさせてしまいがち（パズル、折り紙、ブロックなど）●お手伝いも遊びの一部●親も遊びに付き合わなくてはダメだと思った。●預かり保育の時危険なので遊具で遊ばないように言われるが、けがをして覚えることもあると思う。●遊びを通して人や生き物への思いやり、社会のルールなどを覚えてほしい

- 子どもが納得するまで遊ばせたほうがよいのでしょうか、何かよい切り上げかたは？
- 自転車の練習は何歳頃から？

●ゲームを使って生活のリズムを作っています。ゲームの前にプリントをする、ゲーム後はよみかせです。●本を一冊読ませてからゲームをさせるようにしている。時間は30分と決めている。●時計を気にして遊ぶ子がいますが、暗くなったら帰るくらいの方がいいと思う。●幼いときにどれだけ遊んだかが就学後の生活にも影響してくるのではないかと思います。●一人っ子のため何でも自分で考え工夫して遊んでおり感心する。●最近ままごとで、母親役が人気がないと聞き反省している。●基礎体力の付く遊びをさせたい。

●ヒーローごっこが熱を帯び本当の喧嘩になっているのをよく目にする。自由にごっこ遊びをさせるのであれば最低限のルールを教えたい。●下の子は一人で空想の世界で遊んでいますが、上の子は友達と一緒にいることを好みます。年齢に従って友達との関係が強くなっているようです。●危険なことだけはきちんと教えます。●昔は小学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんに遊んでもらいましたが今はさっぱり見かけません。小学生は何をしているのでしょうか？●おとなしい子、なかなかうまく友達と遊べない子はどうしたらよいのでしょうか。●近所の子が遊びに来たときどこまで怒ったり注意したりすればよいのでしょうか。●友達といるときでも一人で遊びだし協調性に欠けるように見える。●遊びの中で時計の見方やお金の感覚を身につけてほしい

昔はこうだった（遊び）

幼児教育センター顧問 井上初代



「子どもは遊びの名人」だといいます。それはいわゆる昔の子どもにぴったりの言葉でしょう。「昔」を人それぞれの思いにゆだねて、私の「遊び」について話してみようと思います。

●ポケットの中には宝物がザクザク

外での遊び、特に近所の仲間との遊びは、時にみそっかすとしてでも楽しいものです。中でも宝物集めの自慢のし合いは最高でした。色の具合、形のおもしろさ、見立ての本物らしさを競って石、木片、ガラス片を集めました。親には不評でしたが、机、ポケットの中は自称「宝物」がザクザクなのが誇りでした。

●夕方になるのが早すぎる。もっと遊びたい。

木の葉や木の実をお皿やごちそうに見立てたままごと。一寸とびやかくれんぼ、かんけり、ケンパー、パー（メンコ）、ベーゴマなどのゲームは子どもなりに工夫をしながら遊びを楽しくしていきました。ところがどういう訳か自分たちで創り出した各種ごっこが、いつも夕方近くになると盛り上がってくるのです。「電気がついたら帰る」という約束が本当にうらめしかったのを覚えています。昔の遊びはおもちゃも遊び方も自作自演でした。遊びの中で十分に自分を出し切り、創造的で演劇的でした。



トピック

指示多き親の悩み

Q もっともっと楽しく子どもと過ごしたいと思っているのに、朝起きると、着替えから食事、片づけ、風呂等々、つついガミガミと言ってしまう。楽しく子どもがすすんで出来るような方法を教えて欲しいです。

A 「子育て」って本当に大変ですね。後から思うと「どうしてあんなことを言ったんだろう？」とか「あんなことをしなければよかった」など反省することばかり。子育て真っ最中だと目の前のことを消化することだけで精一杯でしょう。ガミガミ言わなくてもお母さんの思うことを進んでやってくれたらどんなに子育てが楽しいことか。でも子どもは生活経験が無いのですから何も言わなくても自分から進んで、着替えや食事やお片づけやお風呂等々、できるはずはありませんね。とするとガミガミ言うのは言っている方の問題になってしまいそうです。

子どもは大人を手こずらせるためにいるのじゃないか、と思うほどイライラさせられることが多いですね。そういう時には本当にエネルギーを消耗します。でも見方を変えて子ども側から見るとどうでしょう？朝は大人でもボーっとしていますね。大人は仕事があるのでいつまでも寝ぼけ

てはいられない！という使命感があるので顔を洗って目を覚ましますが、子どもはそれほどの意識はまだ持てません。寝起きの余韻に浸っている時は、着替えや食事などには言われなくては取りかかれなんでしょう。お片づけにしても意欲を持って遊んだことが終わったとき、遊び道具は子どもの興味からはずれてしまいます。ですから進んでお片づけをすることはなくなってしまうのだと思います。子どもが言われなくても出来るようになるには、生活の中でそれらが習慣として身に付かなければならないと思います。そのためにはガミガミと言いたいところをちょっと我慢して、一緒に片付けたり、言葉かけを工夫したりして習慣づけてください。

子育ては大人も忍耐力を子どもによって育てられることです。大変でしょうが子どもと共に育ち合いましょう。

子どもと読みたい一冊「ぼちぼちいこか」

偕成社

いろいろな仕事に挑戦する、カバくん。

なかなかうまくいかないなあ。

でも、あせらない、あせらない。

ぼちぼち いこか…

ゆっくり たっぷり 自分のペースで

夢をふくらませよう。

(子育てに奮闘するパパ、ママにもひと息ついてほしいな)

マイク=セイラー 作/ロバート=グロスマン 絵 いまえよしと 訳



みんなで子どもを虐待から守りましょう

育児は人生の中でできる最大の偉業だと思います。一言で言えばそうなりますが、長い時間をかけて、多少ならざるの犠牲もいとわずに成し遂げることでありますので、平坦なことではありません。いらいらしてつい手を挙げてしまったり、暴言を吐いたりしてしまうこともあります。しかし、真から子どものためを思っていることと、育児を放棄したり、子どもの心身に深い傷を残したりすることは根本が違います。育児に疲れたときは身近な人に子どもを預かってもらいリフレッシュするとか、誰かに相談するとか、気分転換するように工夫してみませんか？

きっと、お子さんにももらったかけがえのないものを思い出せるでしょう。

みんなで子どもを見守り愛情を持って大切に育てていきましょう。

お知らせ

子どもの遊びに関するとちぎテレビ番組の御案内

「おうち」第5号に関するテレビ番組を次のように放映しますのでご覧ください。

番組タイトル：とちぎ教育新事情「親学ことはじめ⑤」

日 時：平成16年11月27日(土) 17:30~17:50

再放送：平成16年11月29日(月) 12:05~12:25

内 容：子どもの「あそび」に関する実態とその傾向、年齢に応じた遊びの在り方



「おうち」ってどこが何のために出しているの？

栃木県教育委員会の幼児教育部門を担当している「幼児教育センター」が子育てをしている方々へ子どもについての情報を提供する広報誌が「おうち」です。各号のテーマについて、前の号でアンケートを実施し、その結果をもとに子どもや子育てについて考えていきます。

栃木教育の日 平成16年11月13日(土)

県レベルの53の教育関係団体が集結し行う教育運動です。

栃木県から取組が始まり、全国各地に設定の気運が高まっています。

第13回とちぎ教育振興大会

場所：宇都宮市文化会館 12時：受付

内容：アトラクション 関谷の城鉦舞
(せきやのしろくわまい)

出演 関谷城鉦舞保存会
(塩原町関谷下田野地区)

講演 14時5分 講師：東京大学大学院教育学研究科教授 荻谷 剛彦 先生
演題：「『教育改革』という危機_分権化は教育を救うのか」

家庭教育広報誌「おうち」

第5号 平成16年10月発行

発行者 栃木県教育委員会幼児教育センター
〒320-0002 宇都宮市瓦谷町1070

TEL：028-665-7215

FAX：028-665-7216

URL：http://www.educ.pref.tochigi.jp

e-mail：youkyou@tochigi-c.ed.jp